

# 第 11 回 四万十川流域保全振興委員会 会議録（概要）

開催日時、議事次第など

日時	平成 22 年 2 月 8 日 14:00～17:00	場 所	中村プリンスホテル
会議資料	資料 1 四万十川流域振興ビジョン（案）について 資料 2 「目標指標」の見直しについて 資料 3 四万十川流域における文化的景観の取り組みについて 資料 4 重要里地里山の選定について その他参考資料		

## 概 要

### ○委員会の開催要件の充足

委員 15 名のうち 11 名の方が出席であるため、会の開催要件を充足。

（高知県四万十川流域保全振興委員会施行規則第 39 条第 3 項により委員の半数を超える出席が必要）

### ○本会の議題

- 1 四万十川流域振興ビジョン（案）について
- 2 「目標指標」の見直しについて
- 3 四万十川流域における文化的景観の取り組みについて
- 4 重要里地里山の選定について
- 5 その他

### ○各議題について

#### 1 四万十川流域振興ビジョン（案）について

事務局が資料 1 に沿って、以下の項目を説明

- ①四万十川流域振興ビジョン策定の背景、目的など
- ②策定の流れ
- ③取り組みについての基本的な考え方
- ④施策体系と取り組み内容
- ⑤今後の展開
- ⑥第 10 回委員会でもいただいた意見をもとに修正した内容

委員から出た意見

- ・グリーンツーリズム連絡会の頭には「四万十川」がつくのでは
- ・施策体系のなかで、四万十川グリーンツーリズム連絡会のような取り組みを「地域間交流・情報化」の所に入れてはどうか
- ・河口の汽水域の生態系が乱れていること（砂州の問題）や価値について関心を持っていただきたい
- ・汽水域が変わったことによって、鮎の問題も挙げられる
- ・資源回復に向けた研究によって分かったことについてはフィードバックが必要である

#### 2 「目標指標」の見直しについて

事務局より資料 2 に沿って、「目標指標」について項目ごとに説明

## 会長補足

- ・データがとれたのでそのまま継続する項目についてはこの算出の仕方でのよいのか、データは取れたが根拠がないため継続するが目標値を定めない項目については現状把握でいいのか、削除する項目については本当に削除していいのか、という 3 つの観点がある。また、新たな指標を加えるのか、さらにここには出ていない指標について、提案や意見を頂きたい

## 委員から出た提案、意見

- ・評価とは、元に戻って川を良くする、あるいは地域の活性化の指標にふさわしいかどうかという点で議論されたのか、それとも各項目を点検して個別件案で積み上げ式に出された評価なのか
- ・出来る限り元に戻すということの評価するのであれば、自然保護や保全に対する研究やフィードバックとの関連が必要ではないだろうか。また、指標を検討する際は経済という指標だけではなく、コミュニティからみた満足度や幸福度はどういうものなのかという視点での見直しをお願いしたい
- ・レジ袋の有料化の店舗数というものを指標のなかに入れていただいたら、流域のなかで地域に広めていく目標になるのではないか
- ・本当にそれが指標としてよかったのか、といった指標自体の見直しが必要ではないか
- ・数値目標を設置するのであれば、それを検証していく機関や場を置く必要があるのではないか
- ・指標自体の見直しについては、例えば森を評価する場合、ヘクタールではなくキロメートルで表したり、面積だけではなく生態学的に評価したりしていくと、出来ることではないだろうか
- ・専門家の意見を収集するには、文化環境アドバイザーの利用や四万十・流域圏学会などへアプローチをしてはどうか
- ・24年の目標設定について、平成19年の目標値が達成できたから、その延長上でやるというのではなく、もう少し戻って、24年までに何が出来るかという設定で、再考いただきたい。過去のピークを目標とする際は、何がそのピークを作ったのかを分析してから利用するようにしていただきたい
- ・住民側にとっての目標となる項目の部分をどのように示していくかという所も大事にしていきたい
- ・本会に、市町村の担当も参加をして、目標の管理や意識の醸成含めて、市町村が自主的に取り組むような形を取っていただけたらいい
- ・地域の方たちにこの5年間の結果と、これから何をして欲しいというメッセージを出す必要があるのではないかと、また行政ができなかったことについては、なぜそれができなかったのかを考え、24年に向かって新たな目標を設定していただきたい

## 事務局からの回答

- ・評価については、数値を評価したものがほとんどであり、全てが、背景までさかのぼって評価を行ったものではない
- ・指標については、本質的にどうしてこんな数字になったのかということ、この指標でいいのかどうかということを現況から評価する必要があると考える
- ・前回この指標を求めた意味と検証結果をどのように把握、あるいは評価するのかという視点についてのご意見や、次の計画に向けてのアドバイスをいただきたい
- ・専門家の方のご意見を頂きながら、一地域をポイントにして、一定の評価を行うという作業をした

うえで、見直しの作業を行う必要性を感じた。次、項目を議論するときには、是非皆さんにご相談をしながら、項目ごとにご意見を頂戴したい

- ・目標値の設定については、時代背景の変化も事実としてはあるが、現在の時代背景に沿ったものとして、この流域の地域振興につながる形で、どういう指標が最もこの地域を活性化するか、あるいは将来を描くのにふさわしいかという観点で、新しい目標値を探してみたい。また、ご提案があればいただきたい

### 3 四万十川流域における文化的景観の取り組みについて

委員長より資料3に沿って、以下の内容を説明

- ・資料3の時点から新たに4件加わり、現在19件あり、内5つが四万十川流域の文化的景観。
- ・非常に広い範囲の文化的景観の設定で、全国でも同じような取り組みが起こっている
- ・四万十流域では追加申請として今、梶原町と津野町が四万十山脈を越えるための峠の道を研究調査している

### 4 重要里地里山の選定について

委員長より資料4に沿って、以下の内容を説明

- ・2010年10月に日本で生物多様性国際条約の条約締結国国際会議が開催され、里山イニシアティブが全世界に発信する。そのために行われた日本の優れた里地里山を選ぶ委員会で、ベスト20に四万十町が選定された

委員から出た意見

特になし

### 5 その他

参考資料について

委員長より、参考資料（文化的景観研究集会（第1回）報告書（奈良文化財研究所））の紹介

今後について

日本各地で次の段階について議論がなされている。ひとつは生物圏保護区、もうひとつは世界遺産。今一度、委員の皆さんで考える必要がある。

委員から出た意見

特になし

以上